

すずむし

第111号

1975年6月

倉敷昆虫同好会

目 次

脇本 浩		
山地 治	： 臥牛山(高梁市)のカミキリムシについて -----	1
渡辺 昭彦		
風早 保男	： 恵まれなかった対島での採集 -----	10
青野 雅樹	： シロスジドウボソカミキリとその観察 -----	13
藤原 敏栄	： 蝶の吸水と訪花の記録 -----	17
宇野, 青野, 近藤, 重井	： ヘリコプターを使っての農薬の空散は自然を破壊する(予報) -----	20
山地 治	： 備中高松の天牛 -----	21
分島 徹人		
山地 治	： 岡山県のカミキリムシ数種 -----	22
難波 通孝	： 広島県高田郡白木町のシルビアシジミ -----	25
近藤 光宏	： 倉敷市玉島地区のナガサキアゲハ -----	27
黒田 祐一	： 深谷先生の思い出 -----	28
安江 安宜	： 深谷昌次博士を悼む -----	29
近藤 光宏	： 深谷先生・ズイムシ・アルバイト -----	31
青野 孝昭	： 深谷先生を偲ぶ -----	32
小野 洋	： 深谷先生のごせい去を悼む -----	33

《おとしぶみ》

渡辺 昭彦	： 倉敷市内でのイシガケチョウの記録 -----	12
難波 通孝	： メスアカミドリシジミの新産地 -----	12
那須 敏		
難波 通孝	： モンシロチョウを12月中旬に採る -----	12
渡辺 昭彦	： 臥牛山でオオキノコゴミムシが採れる -----	12
渡辺 毅	： カラスシジミの採集 -----	16
難波 通孝	： ベニモンカラスシジミの訪花例 -----	19
〃	： スギタニルリシジミの新産地 -----	19
赤枝 一弘	： 蛾2種の記録 -----	26
〃	： 日応寺附近のトンボ2種 -----	26
〃	： モリヤママダガについて -----	26
難波 通孝	： フジミドリシジミの新産地と飼育例 -----	27
三宅 誠治		

臥牛山（高梁市）のカミキリムシについて

脇 本 浩（岡山県都窪郡清音村362の2）

山 地 治（岡山市幸町9の9）

渡 辺 昭 彦（倉敷市上東1050-1）

はじめに

臥牛山のカミキリムシについては、すでに、筆者の一人、脇本によってすずむし、Vol. 17(1)（1968年3月）に発表している。しかし、今日までに同好者の努力によってくわしく調査され、133種を記録するに至り、ほとんど出つくした感じがする。そこで、今までの報告と1974年9月までの知見をまとめて報告させていただく。

訪花性のカミキリについては多少問題点があると思うが、一覧表を作成してみた。目録とあわせて同好者の参考に供したいと思う。

従来の記録が昼間のものに限られていたので、1973年6月20、21日；7月30日の3回、夜間採集を行なった。結果は、ヨツボシカミキリなどが飛来したにすぎず、期待したほどではなかった。むしろ、麓の水銀灯にアオスジカミキリ、ミヤマカミキリ等が来ており丹念に探せばこの方が成果がある様に思われた。

また、夜間に、材を見てまわり、キマダラカミキリが多数切り株に集まっていたり、夕刻ベニバナカミキリが飛んでいたりと、この方が収穫があった。

この報文を書くにあたり、日頃から色々ご教示いただいている青野孝昭氏に厚くお礼申し上げます。また、ご協力いただいた同好の方々、特に那須敏氏、分島徹人氏、石原宣彦氏、また、夜間採集を行なうにあたって色々お世話をいただいた泉順逸氏にそれぞれ厚くお礼申し上げます。

臥牛山におけるカミキリムシの訪花

ハナカミキリ類をはじめとして、多くのカミキリムシが花を訪れ、花での採集によって得られるが、臥牛山においても採集された種類数の約 $\frac{1}{3}$ の43種が花から得られている。また、原生林のため、訪花植物も多く、シーズン中は何がしかの花がいつも咲いている。その他、多くの珍種も花上から得られているので、我々の興味を引き、これをまとめてみようとして試みた。しかし、資料不足に加え、カミキリの訪花要因も複雑に思われるので、結論を出さず、資料のままの形で公表する。

次の表は、筆者等の他、分島徹人・石原宣彦両者の協力を得て作成したもので、用いた記録は、文献からの引用、筆者等五人の観察、採集例及び同行者の採集したのを確認したものである。記録されたものは表中「○」で表わしておく。なお、

※花の下の葉上、などもいくつかあったが用いなかった。

※個体数については、客観的に表わしにくいので触れなかった。

※偶然に採れたものも区別できないので含まれているものと思われる。

だいたいの花期(1)	5月上旬			5月下旬			6月上旬		6月中旬	6月下旬	7月中旬 ~下旬	8月上旬						
	4月下旬	5月中旬		6月上旬		6月中旬	6月下旬	7月上旬	7月中旬	7月下旬	8月上旬							
植物(2)	ザイフリボク	ウワミズザクラ	イロハカエデ	イヌザンショウ?	(3)ガマズミ類	ミズキの一種	カマツカ	(4)ハゼ類	コガクウツギ	タラヨウ	サワフタギ	イワガラミ?	ソヨゴ	ツゲの一種	クマノミズキ	(5)ツル性白色花	リョウブ	
カミキリムシ																		
1. クビアカドウガネハナ			○						○									
2. キバネニセハムシハナ		○	○				○	○	○									
3. ヒナルリハナ	○	○	○	○														
4. ヤマトヒメハナ		○	○		○	○	○	○	○									
5. セスジヒメハナ	○	○	○		○	○	○		○									
6. フタオビノミハナ		○	○		○	○	○		○									
7. チャイロヒメハナ		○	○		○	○	○	○	○									
8. チャボハナ									○						○	○		
9. ミヤマクロハナ									○				○					
10. ミヤママルリハナ		○	○			○			○			○						
11. ツヤケシハナ							○		○	○								
12. アカハナ																	○	
13. クロハナ													○					
14. ツマグロハナ								○					○					
15. オオヨツスジハナ																	○	
16. カタキハナ						○	○		○									
17. ベーツヤサ			○															
18. キマダラ								○					○					
19. トビイロ								○										
20. アメイロ													○		○			
21. カッコウメダカ										○								
22. カエデヒゲナガコバネ	○	○	○		○	○	○											
23. ウスグロヒゲナガコバネ			○															
24. オダヒゲナガコバネ	○	○	○			○	○											
25. コジマヒゲナガコバネ	○	○	○	○		○	○				○							
26. ヒメスギ			○															
27. ツマルトラ			○				○											
28. キンケトラ			○				○			○								
29. キスジトラ							○											
30. アカネトラ			○															
31. ヨコヤマトラ			○															
32. エグリトラ							○											
33. トウキョウトラ	○		○				○											
34. ホソトラ																○	○	○
35. ヒメクロトラ		○	○				○		○									
36. トゲヒゲトラ	○	○	○	○				○			○							
37. シロトラ			○	○								○						
38. トガリバアカネトラ			○	○								○	○					

だいたいの花期 (1)		4月下旬		5月上旬			5月中旬			5月下旬		6月上旬		6月中旬	6月下旬	7月中旬	7月下旬	8月上旬
		植物 (2)	ザイフリボク	ウワミズザクラ	イロハカエデ	イヌザンショウ?	(3)ガマズミ類	ミズキの一種	カマツカ	(4)ハゼ	コガクウツギ	タラヨウ	サワフタギ	イワガラミ?	ソヨゴ	ツゲの一種	クマノミズキ	(5)ツル性白色花
カミキリムシ																		
39. ホタル				○					○		○							
40. クビアカモモトホソ		○	○	○		○	○	○		○	○			○	○			
41. ベニ			○	○					○									
42. フタオビアラゲ														○				
43. シラホシ								○										

※ 他にヤマフジの花から *Pidonia* が1~2種、ツツジの一種からミヤマ
ルリハナが採れている。

- 註 (1) だいたいの花期としたのは花の咲く時期が同じ植物でも、年により違うことがあり、また、1本1本違うからである。
- (2) 植物の配列は花期の順とし、専門的分类は行なっていない。
ヤマフジ、ツツジの一種を含めカミキリの訪花したものは全部のせた。
- (3) ガマズミ類にはガマズミとミヤマガマズミがあるようだが、我々にはよくわからず、また、花期も同じようなので1つにまとめた。
- (4) ハゼ、ヤマハゼの2つで今まで報告されている。臥牛山にあるのはヤマハゼだけかも知れないが、このようにしておく。
- (5) テイカズラではないかという話もあるが明らかでない。(アジサイのような花ではない。)

多少の問題点

- 1 表中の植物のうち、十分調べられたのはイロハカエデだけと思われ、カマツカ、コガクウツギ、タラヨウなどがかなり調べられている。他の多くは、2~3度の採集によっている。
- 2 場所による差
同種の花でも、日当たりや場所によって集まるカミキリの種類や個体数に差があるようだが、具体的に書き表わすことはできなかった。
- 3 時間による差
「午前が多いもの」とか「午後が多いもの」ということがあるようだが、これも書き表わせなかった。中には、午前中に多いヤマトヒメハナのようなかなりはっきりしたものもあるようだ。
- 4 個体数について
カミキリにも好みがあるようだが、これも書き表わせなかった。

4月下旬の花のうち、コジマヒゲナガコバネとシロトラは、特にサンショウの一種に多く集まるようだ。

5 キマダラカミキリの訪花性について

我々で3例の花から採集記録がある。近縁のキイロミヤマカミキリを考え合わせると、偶然に採れたというより花に来ていたと考えたいが、もう少し観察例をふやして確認したい。

6 花の数など

多くある花と、1~2本しか見つかっていない花がある。採集密度のばらつきも大きい。

7 その他

4月下旬~5月下旬にかけては多くの人が採集に入るが、6月中旬以後は、訪れる人も少ない。アカメガシワなどもかなりあるが全く採集されていないようだし、他の花においても大差はないようである。今後の調査が期待される。また、普通種の記録をおろそかにしていたため大変困った。

凡 例

- 1) 目録記載の分類、学名は、草間慶一氏著、「日本産カミキリの生態と分布一覧表」京浜昆虫同好会編、「新しい昆虫採集案内(Ⅲ)」に従った。
- 2) 既発表の記録については種名の最後に文献番号を付した。
- 3) この報文で臥牛山から初めて記録されるものについては番号の右肩に*印をつけ、Dataを付した。ただし、筆者の記録したものについては氏名を省略した。

臥牛山のカミキリ目録

I Prioninae のこぎりかみきり亜科

1. *Megopis (Aegosoma) sinica* (WHITE) ウスバカミキリ¹⁾
2. *Prionus insularis* MOTSCHULSKY ノコギリカミキリ¹⁾
- 3* *Prionus sejunctus* HAYASHI ニセノコギリカミキリ lex., 30. VI. 1973

II Spondylinae くろかみきり亜科

4. *Spondylis buprestoides* (LINNÉ) クロカミキリ¹⁾

III Aseminae ひらたかみきり亜科

- 5* *Cephalallus unicolor* (GAHAN) ツシمامナクボカミキリ 18, 3. VI. 1974

IV Disteninae ほそかみきり亜科

- 6* *Distenia gracilis* (BLESSIG) ホソカミキリ lex., 8. VI. 1972
分島徹人氏採集。

V Lepturinae はなかみきり亜科

7. *Gaurotes (carilia) atripennis* MATSUSHITA クビアカドウガネハナカミキリ⁵⁾

- 8* *Gaurotes (Paragaurotes) doris* BATES カラカネハナカミキリ
lex., 10. V. 1973
9. *Lemula decipiens* BATES キバネニセハムツハナカミキリ¹⁾
10. *Acmaeops (Dinoptera) minuta* (GEBLER) ヒナルリハナカミキリ¹⁾
11. *Pidonia (Pidonia) yamato* HAYASHI et MIZUNO ヤマトヒメハナカミキリ¹⁾
12. *Pidonia (Pidonia) amentata* (BATES) セスジヒメハナカミキリ¹⁾
13. *Pidonia (Omphalodera) puziloi* (SOLSKY) フタオビノミハナカミキリ¹⁾
14. *Pidonia (Mumon) debilis* (KRAATZ) チャイロヒメハナカミキリ¹⁾
15. *Anoplodera (Pseudalosterna) misella* (BATES) チャボハナカミキリ¹⁾
16. *Anoplodera (Anoploderomorpha) excavata* (BATES) ミヤマクロハナカミキリ¹⁾
17. *Anoplodra (Kanekoa) azumensis* (MATSUSHITA et TAMANUKI) ミヤマルリハナ
カミキリ¹⁾
18. *Anoplodera (Anastrangalis) scotodes* (BATES) ツヤケシハナカミキリ¹⁾
19. *Anoplodera (Corymbia) rubra succedanea* (LEWIS) アカハナカミキリ¹⁾
- 20* *Paranaspia anaspidoidea* (BATES) ベニバハナカミキリ lex., 21. VI. 1973
分島徹人氏採集
- 21* *Leptura (Leptura) aethiops* PODA ssp. *dimorpha* BATES ムネアカクロハ
ナカミキリ 1 ♂, 5. VI. 1971
22. *Leptura (Leptura) arcuata* PANZER ssp. *tsumagurohana* OHBAYASHI ツマ
グロハナカミキリ¹⁾
23. *Leptura (Leptura) ochraceofasciata* (MOTSCHULSKY) ヨツスジハナカミキリ¹⁾
24. *Leptura (Megaleptura) regalis* (BATES) オオヨツスジハナカミキリ¹⁾
25. *Leptura (Pedostrangalia) femoralis* (MOTSCHULSKY) カタキハナカミキリ¹⁾
- VI Cerambycinae** かみきり亜科
- 26* *Xystrocera globosa* (OLIVIER) アオスジカミキリ lex., 30. VI. 1973
27. *Leptoxenus ibidiiformis* BATES ベーツヤサカミキリ¹⁾
- 28* *Massicus raddei* (BLESSIG) ミヤマカミキリ 2 exs., 30. VI. 1973
29. *Aeolesthes (Pseudaolesthes) chrysothrix* (BATES) キマダラカミキリ¹⁾
30. *Allotraeus (Allotraeus) sphaerioninus* BATES トビイロカミキリ¹⁾
- 31* *Stenogrinum quadrinotatum* BATES ヨツボシカミキリ 10 exs., 21. VI.
1973
32. *Stenodryas clavigera* BATES アメイロカミキリ¹⁾
33. *Ceresium holophaeum* BATES ヨコヤマヒメカミキリ⁴⁾
- 34* *Stenomalus taiwanus* MATSUSHITA タイワンメダカカミキリ VI. ~ VI. 1973
(羽化脱出)
35. *Stenomalus cleroides* BATES カッコウメダカカミキリ¹⁾
- 36* *Leptepania japonica* HAYASHI ヤマトチビコバネカミキリ lex., 10. VI.
1972

37. *Molorchus* (*Linomius*) *ishiharai* OHBAYASHI カエデヒナガコバネカミキリ¹⁾
38. *Molorchus* (*Linomius*) *fuscipennis* HAYASHI ウスグロヒゲナガコバネカミキリ²⁾
39. *Molorchus* (*Linomius*) *gracilis* (HAYASHI) オダヒゲナガコバネカミキリ¹⁾
40. *Molorchus* (*Linomius*) *kojimai* (MATSUSHITA) コジマヒゲナガコバネカミキリ¹⁾
- 41.* *Pyrestes haematicus* PASCOE クスベニカミキリ *lex.*, 1. VIII. 1971 横田正義氏採集
42. *Chloridolum* (*Leontium*) *viride* THOMSON ミドリカミキリ¹⁾
- 43.* *Chloridolum* (*Parachloridolum*) *thaliodes* BATES オオアオカミキリ 18. 6. VIII. 1969 中村具見氏採集
- 44.* *Semanotus japonicus* (LACORDAIRE) スギカミキリ *lex.*, 22. IV. 1973 井上洋一氏採集
- 45.* *Palaecallidium* (*Callidielum*) *rufipenne* (MOTSCHULSKY) ヒメスギカミキリ 2 exs., 29. IV. 1972
- 46.* *Phymatodes* (*Paraphymatodes*) *albicinctus* BATES シロオビチビヒラタカミキリ *lex.*, 10. V. 1972
- 47.* *Phymatodes* (*Poecilium*) *maaki* (KRAATZ) アカネカミキリ *lex.*, 20. V. 1973 小笠原隆氏採集; 2 exs., 20. V. 1973 松村英一氏採集
48. *Phymatodes* (*Poecilium*) *quadrimaculatus* GRESSITT ヨツボンチビヒラタカミキリ⁷⁾
49. *Xylotrechus grayii* (WHITE) ムネマダトラカミキリ¹⁾
50. *Xylotrechus lautus* (MATSUSHITA) ズマルトラカミキリ¹⁾
51. *Clytus auripilis* BATES キンケトラカミキリ¹⁾
52. *Clytus melaenus* BATES シラケトラカミキリ¹⁾
- 53.* *Cyrtoclytus caproides* (BATES) キスジトラカミキリ *lex.*, 2. VI. 1973
- 54.* *Brachyclytus singularis* KRAATZ アカネトラカミキリ *lex.*, 29. IV. 1972 分島徹人氏採集
55. *Epiclytus yokoyamai* (KANO) ヨコヤマトラカミキリ⁷⁾
56. *Chlorophorus japonicus* (CHEVROLAT) エグリトラカミキリ¹⁾
57. *Chlorophorus yedoensis* (KANO) トウキョウトラカミキリ¹⁾
58. *Chlorophorus notabilis* (PASCOE) キイロトラカミキリ¹⁾
59. *Rhaphuma xenisca* (BATES) ホソトラカミキリ¹⁾
60. *Rhaphuma diminuta* (BATES) ヒメクロトラカミキリ¹⁾
61. *Demonax transilis* BATES トゲヒゲトラカミキリ¹⁾
62. *Paraclytus excultus* BATES シロトラカミキリ¹⁾
63. *Anaglyptus matsushitai* HAYASHI マツシタトラカミキリ⁵⁾
- 64.* *Anaglyptus bellus* MATSUMURA et MATSUSHITA アカジマトラカミキリ 3 exs., 15. X. 1971
65. *Anaglyptus niponensis* BATES トガリバアカネトラカミキリ¹⁾
66. *Dere thoracica* WHITE ホタルカミキリ¹⁾

67. *Kuraruia rhopalophoroides* HAYASHI クビアカモモフトホソカミキリ¹⁾
 68. *Purpuricenus (Sternoplistes) temminckii* (GUÉRIN-MÉNEVILLE) ベニカミキリ¹⁾
 69. *Purpuricenus (Sternoplistes) spectabilis* MOTSCHULSKY ヘリドロベニカミキリ¹⁾

VII *Lamiinae* ふとかみきり亜科

70. *Falsomesosella (Falsomesosella) gracilior* (BATES) シロオビゴマフカミキリ¹⁾
 71. *Mesosa (Mesosa) myops japonica* BATES ゴマフカミキリ¹⁾
 72. *Mesosa (Aphelocnemia) senilis* BATES ウスアオゴマフカミキリ¹⁾
 73. *Mesosa (Aphelocnemia) longipennis* BATES ナガゴマフカミキリ¹⁾
 74. *Mesosa (Perimesosa) poecila* BATES マダラゴマフカミキリ⁴⁾
 75. *Mesosa (Perimesosa) hirsuta* BATES カタジロゴマフカミキリ¹⁾
 76. *Asaperda rufipes* BATES キクスイモドキカミキリ¹⁾
 77.* *Atimura japonica* BATES コブスジサビカミキリ 2exs., 20. V. 1973 小笠原隆氏採集; 1ex., 20. V. 1973 松村英一氏採集; 1ex., 15. VI. 1973
 78. *Xylariopsis (Xylariopsis) mimica* BATES クビジロカミキリ²⁾
 79. *Microlera ptinoides* BATES ヒシカミキリ¹⁾
 80. *Neosybra cribrella* BATES ヒメアヤモンチビカミキリ¹⁾
 81. *Sybra unifasciata* FUJIMURA ヒトオビチビカミキリ¹⁰⁾
 82.* *Pseudocalamobius japonicus* (BATES) ドウボソカミキリ 1ex., 22. V. 1971; 1ex., 27. VI. 1971
 83.* *Pothyne silacea* PASCOE シロスジドウボソカミキリ 1ex., 2. VI. 1973
 84.* *Niphona furcata* (BATES) ハイイロヤハズカミキリ 1ex., 22. V. 1971
 85. *Pterolophia (Pterolophia) zonata* (BATES) アトジロサビカミキリ¹⁾
 86. *Pterolophia (Pterolophia) caudata* (BATES) トガリシロオビサビカミキリ¹⁾
 87. *Pterolophia (Pterolophia) granulatus* (MOTSCHULSKY) アトモンサビカミキリ¹⁾
 88. *Pterolophia (Pterolophia) leiopodina* (BATES) ヒメナガサビカミキリ¹⁾
 89.* *Pterolophia (Hylobrotus) annulata* (CHEVROLAT) ワモンサビカミキリ 1ex., 5. X. 1969; 1ex., 20. II. 1972; 2exs., 15. VI. 1973 分島徹人氏採集
 90. *Pterolophia (Ale) jugosa* (BATES) ナカジロサビカミキリ¹⁾
 91. *Mesosella simiola* BATES クワサビカミキリ¹⁾
 92. *Egesina (Nijjimaia) bifasciana* (MATSUSHITA) ニイジマチビカミキリ¹⁾
 93. *Monochamus (Monochamus) grandis* WATERHOUSE ヒゲナガカミキリ¹⁾
 94. *Monochamus (Monochamus) saltuarius* (GEBLER) カラフトヒゲナガカミキリ⁵⁾
 95.* *Monochamus (Monochamus) alternatus* HOPE マツノトビイロカミキリ 1♂, 15. X. 1971
 96. *Monochamus (Monochamus) subfasciatus* (BATES) ヒメヒゲナガカミキリ¹⁾
 97.* *Acalolepta luxuriosa* (BATES) センノキカミキリ 1♀, 14. X. 1974

98. *Acalolepta fraudatorix* (BATES) ビロウドカミキリ¹⁾
99. *Acalolepta sejuncta* (BATES) ニセビロウドカミキリ¹⁾
100. *Uraecha bimaculata* THOMSON ヤハズカミキリ¹⁾
- 101.* *Psacotha hilaris* (PASCOE) キボンシカミキリ 1ex., 24. VI. 1973
- 102.* *Batocera lineolata* CHEVROLAT シロスジカミキリ 1ex., 18. VI. 1971 青野
雅樹氏採集
103. *Palimna liturata* (BATES) ヒゲナガゴマフカミキリ¹⁾
- 104.* *Olenecamptus octopustulatus formosanus* PIC タカサゴシロカミキリ
3exs., 20. V. 1974 (羽化脱出)
105. *Rhodopina lewisii* (BATES) セミスジコブヒゲカミキリ¹⁾
- 106.* *Rhopaloscelis maculatus* BATES フタモンアラゲカミキリ 1ex., 28. VI.
1973
107. *Rhopaloscelis bifasciatus* KRAATZ フタオビアラゲカミキリ¹⁾
108. *Rhopaloscelis unifasciatus* BLESSIG ヒトオビアラゲカミキリ¹⁾
109. *Cylindilla grisescens* BATES ハイイロツツクビカミキリ¹⁾
110. *Doius divaricatus* (BATES) ドイカミキリ¹⁾
111. *Sybrodiboma subfasciata* (BATES) シロオビチビカミキリ¹⁾
112. *Sophronica obrioides* (BATES) イボタサビカミキリ²⁾
113. *Pogonocherus* (*Eupogonocherus*) *seminiveus* BATES ネジロカミキリ¹⁾
114. *Acanthocinus griseus* (FABRICIUS) スジマダラモモフトカミキリ³⁾
- 115.* *Eryssamena saperdina* BATES トゲバカミキリ 1ex., 30. V. 1974 ; 2exs.,
6. VI. 1974 ; 3exs., 16. VI. 1974. (いずれも羽化脱出)
- 116.* *Eryssamena sapporensis* (MATSUSHITA) ホウノキトゲバカミキリ 1ex., 25.
VI. 1972.
117. *Exocentrus* (*Exocentrus*) *galloisi* MATSUSHITA ガロアケンカミキリ¹⁾
118. *Exocentrus* (*Exocentrus*) *lineatus* BATES アトモンマルケンカミキリ¹⁾
119. *Exocentrus* (*Camptomyne*) *fasciolatus* BATES クモガタケンカミキリ¹⁾
- 120.* *Exocentrus* (*Pseudocentrus*) *guttulatus* BATES シラオビゴマフケンカミキ
リ 1ex., 2. VII. 1970 ; 1ex., 8. VII. 1972. 分島徹人氏採集
- 121.* *Miaenia* (*Pseudocidnus*) *tonsa* (BATES) ケンカミキリ 1ex., 3. VII. 1974.
- 122.* *Bacchisa* (*Bacchisa*) *fortunei japonica* GAHAN ルリカミキリ 1ex., 2.
VI. 1974.
- 123.* *Saperda* (*Saperda*) *tetrastigma* BATES ムネモンヤツボンシカミキリ 1ex.,
10. V. 1969.
- 124.* *Eutetrappa ocelota* (BATES) ヤツメカミキリ 1ex., 23. VI. 1972. 分島徹人
氏採集 ; 1ex., 7. VII. 1973.
125. *Glenea* (*Glenea*) *relicta* PASCOE シラホシカミキリ¹⁾
126. *Paraglenea fortunei* (SAUNDERS) ラミーカミキリ¹⁾
- 127.* *Eumecocera trivittata* (BREUNING) セミスジニセリンゴカミキリ 1♀, 26.

V. 1971 ; 1 ♀, 31. V. 1971. 那須敏氏採集 ; 1 ♂, 29. V. 1971 ; 2♀♀, 30. V. 1971.

128. *Phytoecia*(*Phytoecia*) *rufiventris* GAUTIER キクスイカミキリ¹⁾
 129.* *Epiglenea comes* BATES ヨツキボンカミキリ lex., 20. V. 1973.
 130. *Nupserha marginella*(BATES) ヘリグロリングカミキリ¹⁾
 131. *Oberea sobosana* OHBAYASHI ソボリングカミキリ²⁾
 132.* *Oberea hebescens* BATES フチグロチャバネリングカミキリ lex., 7. VI. 1970. ; lex., 10. VI. 1972. ; lex., 25. VI. 1972.
 133. *Oberea inclusa* PASCOE ホソキリングカミキリ¹⁾

ま と め

今回、臥牛山に産するカミキリムシを7亜科133種報告した。これは県内産の半数以上である。多くは、周辺に棲むものと共通しているが、トウキョウトラカミキリ・チャボハナカミキリなどのように県北脊梁山地との共通種もかなり見ることが出来る。県内産のうち臥牛山にのみ見られるものが7種類あり、これ等の中には全国的に非常に稀なマダラゴマフカミキリなどを含み、小さいながら興味のない山と言えよう。

臥牛山が他地域に見られない特異でしかも豊富な林相を示すだけに、今後の調査によって更に種類が増すことだろう。

主 な 参 考 文 献

- 1) 青野孝昭, 宇野弘之, 重井博, 脇本浩(1970)岡山県のカミキリムシ(すずむし19(1.2); 1~42)
- 2) 平田信夫(1972)岡山県のカミキリムシ(追録)(すずむし108号; 79~85)
- 3) 横田正義(1972)臥牛山でヒゲナガモモブトカミキリを採集(すずむし108号; 86)
- 4) 山地治(1972)岡山県未記録のカミキリ数種(すずむし108号; 88)
- 5) 藤田宏(1973)岡山県のカミキリムシ2種(月刊ムシ24号; 53)
- 6) 京浜昆虫同好会(1972)新しい昆虫採集案内(Ⅱ)
- 7) 杉野広一(1969)はばたき Ⅱ 95
- 8) 小島圭三, 林匡夫(1969)原色日本昆虫生態図鑑Ⅰカミキリ編
- 9) 草間慶一(1973)日本産カミキリの生態と分布一覧表(新しい昆虫採集案内(Ⅲ))
- 10) 那須敏(1973)ヒトオビチビカミキリの記録(すずむし110号; 16)
- 11) 難波早苗(1961)臥牛山国有林植物目録

恵まれなかった対島での採集

風 早 保 男

(都窪郡山手村片山)

島の北端から、南の端まで車で走ってみて、一軒のドライブインもモーテルも見当らなくて、深い原生林の緑と澄みきった海、それに道端にコウライキジが子どもをつれて遊んでいる。こんな風景が忘れられず、ことしも対島に行くことにした。この4月に転勤したので、去年と同じように夏休みの職員旅行にみんなをさそって同意を得た。

去年は8月始めであったが、今年は7月20日出発で、私一人先発した。小倉から船で21日朝6時に比田勝につく。飾り気はないが、料理のうまい福田旅館に今年も宿をきめて荷物をあずける。敵原行きのバスの時間を確かめていなかったもので、ちょうど出たあとになり、上県タクシーを頼む。車中で翌日の本隊の行動の打合せを運転手とすませた。

佐須奈で下りて一人になる。いつ降ってくるかわからない曇り空なので多くは望めない。いわば曇天の蝶をもとめることにする。去年バスの中で長崎の虫屋にきいた、原旅館の裏手を探せというのを手がかりに行くことにする。原旅館などのある町すじの裏通りを歩き、山へはいるのは後まわしにして、漁港地帯を通りすぎてみる。部落をはなれたところに、海に近く伐採あとがある。収穫なし、更に進むと草地にでる。若いヒノキの植林地。ウスバキトンボがやたらに飛んでいる。草の間に、ウラナミジャノメ対島亜種(ツシマウラナミジャノメ)がちらほら見える。傷んでいるものが多く、5頭採って完全品は2頭位であったろうか。しかし昨年は敵原の近くの上見坂で僅かに1頭採集できただけである。僅か10日程のちがいがだが、今年はまだ相当残っている。年によって多少の発生のずれはあるのだろうが、習性はヒメウラナミジャノメと殆んどちがわないので、しかも対島にはヒメウラナミジャノメが居ないので採集は簡単である。この日、どこに行っても相当の個体数だったが、場所によっては傷みのひどいところもあった。

予期しなかった収穫に多少気をよくして引きかえしていると、漁港の倉庫の近くで、タイワンモンシロチョウが1つ翅をとじて、草にとまっていた。採ってみると新鮮なものであった。

バス道路まで帰って湾の反対側を歩く。去年ツシマウラボシシジミを採った電々公社の裏山に入ってみる。火葬場の近くの杉林の下草を入念に探がしてやっと一頭のウラボシを手に入れる。再び道路に沿うて進む。タイワンモンシロを時々見かける。この島にはスジグロシロチョウが殆ど居なくて、タイワンモンシロがそのかわりをつとめているので、モンシロチョウと見誤るだけである。モンシロよりもやや白っぽい感じで飛び方も少しちがうようだ。慣れると大体見当ちがいはないようである。

更に進んで峠にさしかかる。山側は絶壁である。イワヒバなどがついている。ツメレンゲは見当らなかったが、ここでクロツバメシジミを1頭だけ採集した。対島のものは本土産より特化しているというので、これもねらっていたものだが、この1頭だけに終わった。この峠の近くでも去年ウラボシをとったので探したが駄目だった。海側の斜面におりて、

ウラナミジャノメの完全品を探すぐらいしかできなかった。晴れてさえくれれば、アゲハ類、ゴマダラチョウ、ミドリヒョウモン対島亜種、ウラギンツジミ対島亜種など期待できるのと思うが、空は今にも落ちそうな雲行きである。

再び引き返して、原旅館の裏山に入ってみる。せまい谷に沿うあたりを見ると、対島独特の丸太でつくった巣箱(?)が立並ぶミツバチに出あった。カメラを旅館に置いてきたのがくやまれるが、出発のときは、どうせ今日は降られるだろうと思っていたので仕方ない。このあたりの草むらでウラボシ1つだけ採集したが、その他に収穫なし。

今日はこれでできあげようかと、バス乗り場に帰ってベンチに腰を下ろした。午後2時だ、おそい昼食をパンと牛乳ですます。バスを待っていると子どもが遊びに来た。子供と雑談していると、1人の老人が通りかかって、"ウラボシを取りに来たのですか。お宮の裏に行ったのですか!"と問いかけられた。

"どこのお宮ですか!"と問いかえして、はじめてツシマウラボシの"主産地"を教わった。そこで話していると、道の向いの自転車屋から、おばあさんが出てきて語りかけられた。その話は、ここには東京からよく採集に来てうちに寄られる。うち的高校1年になる孫がいつもお供をするのだ、ということで、この前も中根猛彦先生が来られ、あとから採集用具や図鑑など送られたという。そんな話を聞いては切りあげるわけにも行かず、仲よしになった小学生(4年と1年の兄弟)と一しょに教えられた道に行くことにする。

その道は、佐須奈湾の一番奥を海から遠ざかるように川に沿って行けばよい。部落から離れてしばらく行くと神社がある。ここを更に進めば、右側に跳び越えるには広すぎる川があり、その向うが杉林である。左側は、イモ畑などがあり、畑のむこうの山裾もウラボシの棲息しそうなところだが、主たる採集地は、この川の右側(川から言えば左岸)である。実は早く渡って居ればよかったのに、まあそのうちに適当なところがあろうと思って歩いているうちに、大事な採集地を通り過ぎた感がある。それでも、ここは、前に1頭ずつ採ったところに較べると、広い棲息地を形成している。ツシマウラボシは裏面が真白なので、非常によく見える。草むらからとび立っても殆ど高飛することがないので、採集は容易である。対島ではゴイシツジミが非常に多い(笹があれば必ずといっていい位に多い)ので、これと時に見誤るが、ゴイシよりも更に小さい感じである。(標本にしてみるとゴイシの方が小さい個体もあるが。)なれるとまず見誤りはない。ここで5exs採って合計5♂♂ 1♀となった。もっと早く対岸に渡っておれば相当の収穫があったと思われる。ほかにはタイワンモンシロ位なもので、こちらは3♂♂3♀♀となった。

なお、杉林の中のシイタケの楯木でヨツスジハナカミキリの対島亜種を1頭得た。

4時ごろついに小雨が落ちて来たので急いで帰る。帰途ネットを持って登って来る2つのグループに出遇った。私の友人の少年からその中の1人が、あのおばあさんの孫であると教わった。対岸の杉林の彼に声をかけると、いくらかの収穫をあげているようであった。

バス乗り場に帰ったころ、又少し雨になった。彼らはぬれているだろう。

この日の採集はそれだけであったが、現地では現地の人に聞くことが、いかに大切なかをつくづくと思った。京浜同好会の"新しい昆虫採集案内"も月刊むしの対島の採集案内も、肝心のところは教えてくれなかった。

翌日は雨、20人の同僚を迎えたが、タクシーでガスの中を走るだけだった。今年も道端

にコウライキジが居たのがせめてものなぐさめである。厳原に泊る。

第3日、有明山にキリシマミドリなどをねらうつもりだったが、風が強くて、いつ降り出すかわからぬ天候に見切りをつけて、同僚と船で魚釣りにでかけた。

以上が採集記ですが、余談を一つ。

23日の午後厳原から博多への船に乗った。船室に下りてみると、舷窓にきれいなゴマダラチョウがいる。手づかみにして三角紙に包む。新鮮な完全品である。対島産なら夏型でも白っぽいという話だが、この個体は標本にしてみると岡山産よりも黒っぽい感じである。とすれば九州産のものが博多港で無賃乗船したものであろうか。私の採集したところは長崎県厳原港である。

離島の昆虫は特化しているものが多い。しかし、今日の人間の文明は、昆虫にとって思いもかけなかった遠方の同族との結婚の機会をつくりだしているのではないだろうか。

〈おとしぶみ〉

倉敷市内でのイシガケチョウの記録

イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas mabella* FRUHSTREBER は、県内においては、わずかな記録があるのみのものであるが、下記のように採集されたので報告しておく。

1 ex., 14. VII. 1974, 倉敷市 上東

なお、この個体は筆者の留守中に父により、自宅の裏で採られたものである。翅は少しスレているが、これは採集時についた傷のようで、非常に新鮮な個体であったように思われる。土着とは思われないが、あるいは、迷蝶の二次的な発生かもしれない。

(渡辺昭彦)

メスアカミドリシジミの新産地

メスアカミドリシジミ *Chrysozephyrus smaragdinus* BREMER の新産地を確認しましたので報告します。

英田郡東栗倉村 9 8 8, 28. VI. 1974 天候はあまり良くありませんでしたが、かなり産するものと思われま。

(難波通孝・那須 敏)

モンシロチョウ *Pieris rapae crucivora* BOISDUVAL を12月中旬に採る

岡山市北長瀬にて11. XII. '72 に1頭採集した。すずむし、第108号、“岡山県の蝶”によると従来の遅い例としては、津山市内での12月2日があるが、より遅い記録として報告しておく。

(難波通孝)

臥牛山でオオキノコゴミムシが採れる

オオキノコゴミムシ *Lioptera erotyloides* BATES は、非常に特徴のある美しいゴミムシであり、また稀な種のものであるが、下記のように採集されたので報告しておく。

1 ex., 7. VIII. 1973 高梁市 臥牛山, 筆者採

この個体は倒木の裏にいたものである。

(渡辺昭彦)

シロスジドウボソカミキリとその観察

青野雅樹

(倉敷市大内937-8)

本種, *Pothyne silacea* は、イギリス人, Pascoeにより長崎を原産地として、1871年にはじめて発表されている。

ところで筆者は、1972年の秋、偶然に2カ所で発見でき、新食樹、新産地を知ったので、生態とともに報告する次第です。

筆者が本種を初めて見たのは、1972年5月21日の鶏足山採集会のときで、脇本浩氏がつかまえたものであった。

その年も中学時代最後の夏休みを終えた頃は、もうあきらめていた。

ところが9月10日、同級の村上均君と総社市安栗の豪溪にムラサキツバメを求めて行ったとき材中にいた成虫を思いがけなく発見した。

朝8時10分という少し遅い列車に乗って空模様を気にしながら出発した。

曇っていたので蝶が出ないかも……という不安は、豪溪駅近くの民家のテレビ放送により解消された。ミュンヘンオリンピックの男子バレーボールチームが優勝したのであった。

その後、少しファイトがわき、歩きに歩きまわったが、シリブカガシの木がわからず、その中心地帯は既に通り越していた。気をわるくしていたぼくたちだったが、途中で薪から得たブドウトラカミキリたちがまたそれを解消してくれた。

それから1時間ほどたって歩いていたら急にパラッパラッと雨が降ってきた。夕立らしかったがそこにちょうどよい雨やどりの場所があった。そこには、ウメの大木とイチジクと竹があって、ぼくたちは、イチジクの実を契って投げ合いをしていた。

イチジクの木には、破損しているキボソカミキリの成虫がいたが、そのとき目についたのはウメの半枯れ木だった。思いついたらすぐやるほうなのでぼくが枝を元から折ってみた。すると食べ跡があったので持参していたナタで半分に裂いてみた。ちょうど割れ目付近に図鑑で見たと同じ格好をしたシロスジドウボソカミキリの成虫が、直径5mmほどの筒の中でじっとしていた。ぼくは感激して手近の枝をどんどん折っていた。幸い、その木はもう不必要な木らしく農家の人々は、何もいわれなかった。それで彼と共に今度は幼虫を約5匹ほど採って帰った。



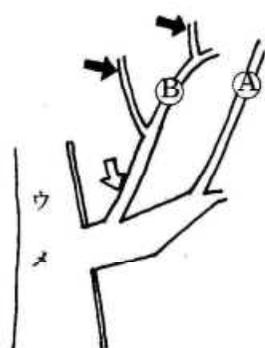
ようである。またワモンドウボソカミキリとして報告されているのも本種に加えた。

*Pothyne silacea*の食樹 *は新記録

ウメ、トベラ、*ウルシ、ハマヒサカキ、ジャケツイバラ、クサギ、ヤブカラシ、ヤマグワ、タブノキ、オオムラサキシキブ、ノイバラとなった。

最後にシロスジドウボソカミキリの習性について少しわかったことを報告する。また、データなどは文尾に書いておく。

豪溪へ、9月10日以降も3回ほど行ったが、その際、幼虫や成虫のいる枝がだいたい予想できるようにになった。



左下は、ウメの略図であるが、この木は④の部分は生きていて⑤の枝が枯れているとしたら、⑥の細い↑印には、幼虫が多く発見でき↑印には、終令幼虫～成虫がいる。またこの木のように半枯れの木が1番効率よく臥牛山のウルシもそうであった。それが実証されたのは、黒田や倉敷市連島に行ったときで、両地区とも環境も木の大きさにふさわしいウメがあったが、全部枯れていたせいとか、発見できなかった。(但し、両地ともあくまでいそうな枝だけを捜したのではっきりしたことはいえない。)

それから豪溪、臥牛山の両地ともカンカン照りになったり、1日じゅう日(太陽)のあたらない場所ではなかった。

また、豪溪のウメの各所では、本種の前年脱出したと思われる穴が見つかったが、いずれも脱出口から2cmばかり残して、先の枝は落ちていた。だから、本種が出たあと、その枝が落とされることもわかった。

それに成虫についてであるが箱の中で気温が約10℃以下になると動かずじっとしているか、仮死状態であり、活発なときは、つかもうとするとよく落ちこちた。

最後にひとこと：シロスジドウボソカミキリを割合採ったといえ、県内では、そんなに多くはなく、木さえ発見すれば、すぐ絶滅可能なのである。

◇データ◇

- 1972 → Sept. 10 (豪溪)ウメ材中、成虫1, 幼虫5匹
- 〃 → Sept. 15 (臥牛山)ウルシ材中、成虫2, 幼虫約3匹
- 〃 → Oct. 8 (豪溪)ウメ材中、幼虫約5匹
- 〃 → Oct. 29 (豪溪)ウメ材中、成虫1, 蛹1, 幼虫数匹

この発表をするにあたって助言、また文献をいろいろ貸して下さった、同好会幹事の方々に感謝します。

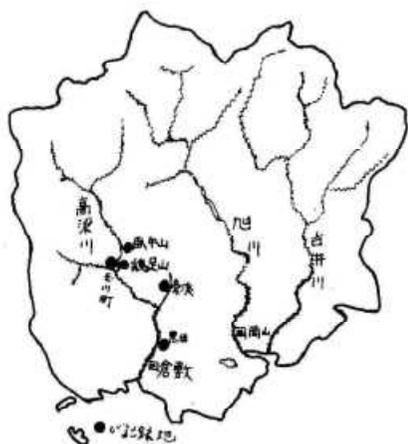
参 考 文 献

Francis P. Pascoe (1871) Descriptions of new Genera and Species of Longicorns, including three new Subfamilies., *Ann. Mag. Nat. Hist.* (4) VIII : 268~279

近畿昆虫同好会(1955) 原色日本昆虫図鑑, 甲虫編: かみきりむし科

小島圭三, 林匡夫(1969) 原色日本昆虫生態図鑑(I), カミキリ編

- 京浜昆虫同好会(1959) 新しい昆虫採集(下) P 444
 白神 昭(1951) 倉敷の天牛数種に就いて, すずむし1(4): 5
 脇本 浩(1965) カミキリムシ科採集目録, すずむし15(2): 9~10



《おとしぶみ》

カラスシジミ *Strymonidia w-album fentoni* BUTLER の採集

昨年について本年も新見市足立で粟の葉上で休んでいるこの蝶を見つけ採集した。
 1♀, 15, VI, 1974 新見市足立(380m)午後1時採集,

(渡辺 毅)

蝶の吸水と訪花の記録 1

藤原 敏 栄

(倉敷市中央2丁目12の5)

1) 吸水(1973年)

- ミヤマセセリ *Erynnis montanus* 3月26日 上房郡賀陽町実光
 ルリシジミ *Celastrina argiolus labonides* 4月8日 都窪郡清音村黒田
 ツバメシジミ *Everes argiades hellotia* 4月22日 高梁市玉川町玉
 サカハチチョウ *Araschnia burejana strigosa* 5月5日 高梁市下神崎
 オナガアゲハ *Papilio macilentus* 5月14日 新見市井倉駅構内
 ダイミョウセセリ *Daimio tethys daiseni* 5月14日 高梁市下神崎
 ホソバセセリ *Isoteinon lamprospilus* 8月7日 倉敷市連島町西之浦
 コムラサキ *Apatura ilia substituta* 9月24日 高梁市石火矢町

(1974年)

- トラフシジミ *Rapala arata* 4月28日 高梁市玉川町玉
 ヒメキマダラセセリ *Ochlodes ochracea rikuchina* 5月28日 高梁市玉川町玉
 コツバメ *Ahlbergia ferrea* 5月28日 高梁市玉川町玉
 クロヒカゲ *Lethe diana* 8月16日 阿哲郡大佐町奥谷
 イチモンジセセリ *Parnara guttata* 9月14日 倉敷市吉岡
 チャバネセセリ *Pelopidas mathias oberthuri* 9月28日 倉敷市吉岡
 ツマドロキチョウ *Eurema leata bethesba* 10月18日 倉敷市笹沖

2) 訪花(1972年)

- モンキアゲハ *Papilio helenus nicconicolens* 8月11日 総社市松尾 ヤブガラシ
 キチョウ *Eurema hecabe mandarina* 6月25日 新見市草間 クリ
 ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata* 6月25日 新見市西草間 ヒメジョオン

(1973年)

- ダイミョウセセリ *Daimio tethys daiseni* 9月2日 新見市井倉 ニラ
 イチモンジセセリ *Parnara guttata* 8月9日 倉敷市連島町 ユウガギク
 ジャコウアゲハ *Byasa alcinous* 4月30日 倉敷市酒津 ツツジの一種
 5月6日 倉敷市水江 ダイコン 8月6日 倉敷市酒津 クサギ
 8月17日 倉敷市酒津 ヒャクニチソウ
 アオスジアゲハ *Graphium sarpedon nipponum* 10月3日 倉敷市日吉町 サルビア
 キアゲハ *Papilio machaon hippocreates* 4月29日 高梁市臥牛山 ツツジ一種
 8月17日 新見市草間 クサギ
 オナガアゲハ *Papilio macilentus* 5月5日 高梁市広瀬 コデマリ
 5月14日 高梁市玉川町玉 ツツジの一種
 モンキアゲハ *Papilio helenus nicconicolens* 5月5日 高梁市広瀬 コデマリ

- 5月5日 高梁市広瀬 ツツジの一種
 カラスアゲハ *Papilio bianor dehaanii* 5月5日 高梁市広瀬 コデマリ
 モンシロチョウ *Pieris rapae crucivora* 5月1日 都窪郡清音村黒田 ダイコン
 5月1日 都窪郡清音村黒田 アブラナ
 ツマキチョウ *Anthocaris scolymus* 4月22日 高梁市玉川町玉 ホトケノザ
 キチョウ *Eurema hecabe mandarina* 9月18日 倉敷市日吉町 ハギの一種
 エゾスジグロシロチョウ *Pieris napi japonica* 5月14日 新見市草間 ハルジョン
 スジボソヤマキチョウ *Gonepterys mahaguru nipponica*
 9月24日 高梁市臥牛山 ヒヨドリバナ 9月24日 高梁市臥牛山 クサギ
 ヤマトシジミ *Zizeeria maha argia* 8月31日 倉敷市連島町 ユウガギク
 9月18日 倉敷市日吉町 ハギの一種
 ベニシジミ *Lycaena phlaeas daimio* 8月17日 倉敷市連島町 ユウガギク
 ウラナミシジミ *Lampides boeticus* 8月31日 倉敷市日吉町 ハギの一種
 ルリシジミ *Celastrina angiolus labonides* 9月3日 倉敷市日吉町 ハギの一種
 ウラギンスジヒョウモン *Argyronome laodice japonica*
 9月23日 高梁市臥牛山 ヒヨドリバナ
 オオウラギンスジヒョウモン *Argyronomerus lana lyssipe*
 9月24日 高梁市臥牛山 ヒヨドリバナ
 ミドリヒョウモン *Argynnis paphia geisha* 9月24日 高梁市臥牛山 ヒヨドリバナ
 ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius* 8月6日 新見市天銀山 アザミ
 アカタテハ *Vanessa indica* 9月2日 親見市草間 ニラ
 ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* 8月17日 倉敷市連島町 ユウガギク
 (1974年)
 ミヤマセセリ *Erynnis montanus* 5月3日 岡山市龍ノ口 ダイコン
 キマダラセセリ *Potanthus flavum* 7月21日 阿哲郡神郷町新郷駅 セリ
 ヘリグロチャバネセセリ *Thymelicus sylvaticus* 7月21日 阿哲郡神郷町新郷駅 セリ
 8月16日 新見市青地 ヒメジョン
 ホソバセセリ *Isoteinon lamprospilus* 8月16日 新見市青地 ヒメジョン
 チャバネセセリ *Pelopidas mathias oberthuri* 9月14日 倉敷市川入 ケイトウ
 10月10日 浅口郡鴨方町遙照山 ミゾソバ 10月10日 浅口郡鴨方町遙照山 ハギ
 10月18日 倉敷市吉岡 マリーゴールド
 イチモンジセセリ *Parnara guttata* 9月14日 倉敷市川入 ケイトウ
 9月28日 倉敷市吉岡 コスモス 10月16日 倉敷市吉岡 マリーゴールド
 10月18日 // ミゾソバ
 ジャコウアゲハ *Byasa alcinous* 8月18日 倉敷市水江 ハルシャギク
 キアゲハ *Papilio machaon hippocreates* 5月3日 岡山市龍ノ口 ダイコン
 9月1日 総社市見延 ムクゲ 9月1日 総社市見延 クズ
 カラスアゲハ *Papilio bianor dehaanii* 7月21日 阿哲郡神郷町三坂 セリ
 トラフシジミ *Rapala arata* 7月21日 阿哲郡神郷町三坂 セリ

- ヤマトシジミ *Zizeeria maha argia* 9月15日 高梁市臥牛山 カタバミ
 10月18日 倉敷市吉岡 ミゾソバ
- クロツバメシジミ *Tongeia fischeri* 7月28日 邑久郡長船町福岡 カーネーション
 7月28日 邑久郡長船町福岡 カタバミ
- ツバメシジミ *Everes argiades hellota* 9月29日 倉敷市浅原 ハギの一種
- ウラナミシジミ *Lampides boeticus* 9月15日 高梁市臥牛山 ニラ
 10月16日 倉敷市吉岡 マリーゴールド 9月18日 倉敷市吉岡 ミゾソバ
- オオウラギンスジヒョウモン *Argyronome ruslana lyssipe*
 7月21日 阿哲郡神郷町三坂 シナノキ 7月21日 阿哲郡神郷町三坂 セリ
- ミドリヒョウモン *Argynnis paphia geisha* 7月21日 阿哲郡神郷町三坂 シナノキ
- キタテハ *Polytonia c-aureum* 9月15日 高梁市臥牛山 ニラ
 10月18日 倉敷市吉岡ミゾソバ
- 3) その他(1973年)
- ウラギンシジミ *Curetis acuta paracuta* 10月2日 倉敷市浅原 動物の糞
 (1974年)
- コチャバネセセリ *Thoressa varia* 8月16日 新見市青地 イチジクの汁

《おとしぶみ》

ベニモンカラスシジミの訪花例

ベニモンカラスシジミ *Strymonidia iyonis kibiensis* SHIRÔZU et NANBA
 の訪花を写真に撮ることが出来たので報告しておきます。

新見市下長屋 12. V. 1974 1♀ ヒメウツギ 写真を撮るにあたりご案内していただき
 ました新見市正田の渡辺毅先生には深く感謝致します。 (難波通孝)

スギタニルリシジミの新産地

スギタニルリシジミ *Celastrina sugitanii* MATSUMURA の新産地を確認したので
 写真をそえて報告しておく。

英田郡西粟倉村 7. V. 1974. 1♂ 目撃, 筆者. 英田郡西粟倉村 12. V. 1974. 2♂♂,
 1♀ 中村具見氏採, 1♀ 安井茂夫氏採, 1♀ 筆者採.

写真は 12. V. 1974 に吸水している♂を撮ったものです。終りに協力していただいた両
 氏に深く感謝いたします。 (難波通孝)



12. V. 1974 新見市下長屋ヒメウツギ



12. V. 1974 英田郡西粟倉村

ヘリコプターを使つての農薬の空散は 自然を破壊する（予報）

マツクイムシ防除のためのスミチオン散布について

（倉敷昆虫館）宇野弘之・青野孝昭・近藤光宏・重井博

昨年の春、スミチオンの空中散布が行われた。岡山県下では4,000kg、倉敷関係で400kgにもおよぶ大規模なものであった。マツクイムシを退治し、マツの緑を守り、ひいては自然環境を保全しようというのである。

たしかに、マツが集団的に枯れて赤茶けていくのを見るには忍びない。近視的、感覚的には、早く何とか手がうてないものかと思う。わが郷土の自然景観をささえる主役は何といつてもマツ林であり、その優美なたたずまいに東洋人的共感をおぼえるのは、われわれだけではあるまい。

しかし、だからといって、農薬を大規模に散布することには、現在のところ、反対せざるを得ない。スミチオン散布によって、あるいはマツクイムシが退治され、マツの緑が守られるかも知れない。しかし、同時にまた、マツクイムシの天敵はもちろんのこと、あらゆる生物を殺傷し、昆虫相や自然生態系にはかり知れぬ影響を及ぼすからである。

いうまでもなく、多種多様の生物は、お互い種々の働きあいを通して、安定した生態系をつくり上げている。このダイナミックスの中にあつて、あらゆる種は、それぞれの構成要素として機能しているのであつて、害虫であると否とを問わず、それぞれの存在がお互にとって必要なのである。そのバランスが農薬の大量大規模散布によって大きく乱れたり、構成種が一種でも欠けるような破目に陥るとどうなるだろうか。自然は複雑であるから、その影響は直ちに表面化すまい。長い年月をかけて、徐々に被害の進行をのぞかせ、予想外のところへ、意表をついた連鎖反応の結果がでてくるだろう。

われわれは、スミチオンの空散に伴う直接的な昆虫類の被害を調査して、ヤコンオサムシなどの地上性歩行昆虫をはじめ、アリなどの地中性昆虫やアリジゴクにいたるまで、非常に広範囲の昆虫に甚大な被害があつたことを確認した。また、食物連鎖上重要な位置を占めるクモ類の死亡体も多数採取している。調査地域では、散布してから24時間を経過していたが、スミチオン特有の異臭が鼻をつき、林道上に目をやれば無造作にころがっている昆虫の死亡体に思わず息をのんだ。フリー匹として、動いている生き物はみあたらない。まさに、“沈黙の春”が、いまここに到来したかの如くであつた。20日ほどの間隔をおいて実施された第二回目の散布では、採取した昆虫類の死亡体は激減し、ことに膜翅目のそれが印象的であつた。

農薬散布によって、その地域のファウナや生態系全体が大きく攪乱されることは明らかである。そして、今後、すくなくとも数年間の、種類別の追跡調査によってその影響を根気強く見守つていかねばならないが、美しい日本の自然を、マツの緑を守るといふ歌い文句とは逆に、自然のバランスを崩し、その影響はひいては人間に及んでくることに思いをいたすべきである。

備中高松の天牛

——アカマツ林のカミキリムシ——

山 地 治 (岡山市幸町9の9)

分 島 徹 人 (岡山市大安寺13-15)

採集地域は、吉備線高松駅に近い標高50 m程度の小山である。当地は吉備高原南端に当り県南特有のアカマツ林であり、伐採跡の日当りの良い斜面にはネズミサシが残されている。筆者等は今春よりシーズンを通じ採集を行なった結果、下記のような県内初記録2種を含む興味あるカミキリムシを得ることが出来たのでここに報告する。

・ *Atimia okayamensis* HAYASHI ケブカマルクビカミキリ (図版1)

12. N. ~ 8. V. 1974 many exs. 26. N. ~ 7. XI. 1974 many exs.
春秋共にネズミサシ生木の叩網により得られた。秋の個体は春のものに比べ新鮮で破損も少ない事より成虫越冬と思われる。なお、県内他地域においても、秋に成虫が採集されている。

・ *Gaurotes atripennis* MATSUSHITA クビアカドウガネハナカミキリ

25. N. ~ 22. V. 1974 many exs.
ケブカマルクビカミキリを採集中ネズミサシの叩網により得られたのが最初である。恐らく訪花していたのであろう。その後アカマツ・コナラ花上、又アカマツ伐採枝上において交尾しているもの等見られた。

・ *Mesosa mediofasciata* BREUNING ヨツボンシロオビゴマフカミキリ (図版2)

16. V. 1974 1ex.
クビアカドウガネハナカミキリを採集中、アカマツ伐採枝上で得られた。東京都高尾山においては、モミ材より脱出しているらしい。県内初記録種である。

・ *Sybra flavomaculata* BREUNING キボンチビカミキリ (図版3)

3~24. VI. 1974 14exs.
アカマツ生木についた枯枝の叩網により得られた。前種と同じく、高尾山においてはモミ材より得られている。県内初記録種である。

・ *Miaenia tonsa* (BATES) ケンカミキリ 9. VI. ~ 24. VI. 1974 many exs.

アカマツ伐採枝の叩網により得られる。県内の記録は少ない。

・ *Leiopus guttatus* BATES ナカバヤシモモフトカミキリ

29. V. ~ 24. VI. 1974 many exs. アカマツ伐採枝の叩網により得られる。

当地では、上記の他、クロカミキリ・ツヤケンハナ・ヒメスギ・キクスイモドキ・マツノマダラ・ワモンサビ・アトモンサビ・マルモンサビ・アトモンマルケン・ホソキリンゴ等のカミキリムシが得られている。このように、アカマツ林より多種類のカミキリムシが得られたことは、筆者等の予期し得なかったことである。身近に存在するこのような地域からも、今後、新たな種類が期待できよう。

岡山県のカミキリムシ数種

山 地 治

(岡山市幸町9の9)

県内で採集したカミキリムシの内、県内初記録種及び分布の参考になると思われるものについて報告する。すでに“臥牛”紙上に種名のみ報告したものがあがるが、改めて Data をそえ、又今回初めて“すずむし”紙上に報告される種については種名の前に*印を付した。

- *Anoplodera azumensis* (MATSUSHITA et TAMANUKI) ミヤママルリハナカミキリ
3. V. 1972 2exs. 英田郡-滝ノ宮; 29. N. 1973 5exs. 川上郡-岩磐溪
29. N. 1973 11exs. 川上郡-穴門山神社; すべてカエデ花上より得られた。
- *Anoplodera misella* (BATES) チャボハナカミキリ
17. M. 1973 1ex. 御津郡-本宮山; イヌツゲ?花上より。
- **Stenhomalus lighti* GRESSITT トワダムモンメダカカミキリ(図版4)
18. V. 1974 1♀, 2. VI. 1974 1♀. 苫田郡-上斎原村三ヶ上
- *Molorchus gracilis* (HAYASHI) オダヒゲナガコバネカミキリ
6. V. 1973 1♂ 勝田郡-滝山; カエデ花上より。
- *Chelidonium quadricolle* BATES アオカミキリ
19. M. 1971 1ex. 英田郡-福本; クリ花上より, 他に飛行中の個体を目撃している。
- *Chelidonium thaliodes* BATES オオアオカミキリ(図版5)
19. VIII. 1972 5♂♂1♀ 苫田郡-上斎原村三ヶ上
オニグルミ衰弱木に飛来したものを採集。また林内を飛行しているものも見られた。
- **Cleomenes takiguchii* OHBAYASHI タキグチモモブトホソカミキリ(図版6)
2. VIII. 1973 1ex. 勝田郡-滝山
休憩中目の前の草に止ったものを採集, すでに同所にて得られているらしい。
- *Sybra sakamotoi kuri* OHBAYASHI et HAYASHI クリチビカミキリ
27. V. 1973 4exs. 英田郡-滝ノ宮; クリ枯枝の叩網による。
- *Miccolamia cleroides* BATES カッコウカミキリ(図版7)
13. V. 1973 1ex. 苫田郡-上斎原村三ヶ上; 枯ヅルの叩網による。
- *Miccolamia verrucosa* BATES チビコブカミキリ
9. V. 1971 4exs. 苫田郡-泉山; 31. V. 1972 2exs. 苫田郡-上斎原村三ヶ上; 枯枝・サワフタギの叩網による。
- *Eumecocera trivittata* BREUNING セミスジニセリンゴカミキリ
? 1972 1ex. 英田郡-英田町福本(伊藤和美採集); 伐採木上にいたそうである。
- *Merionoeda hirsutus* (MITONO et NISHIMURA) スネケブカヒロコバネカミキリ
(図版8) 9. 11. 13. VIII. 1974. 真庭郡-湯原町カスミヶ丘(山地・分島徹人・採集); センダン花上より, 1972年に追手門大学の蒜山の生物調査報告に発表されているものであるが, 本年度同所において多数得られたので報告しておく。

すずむし 111 号図版

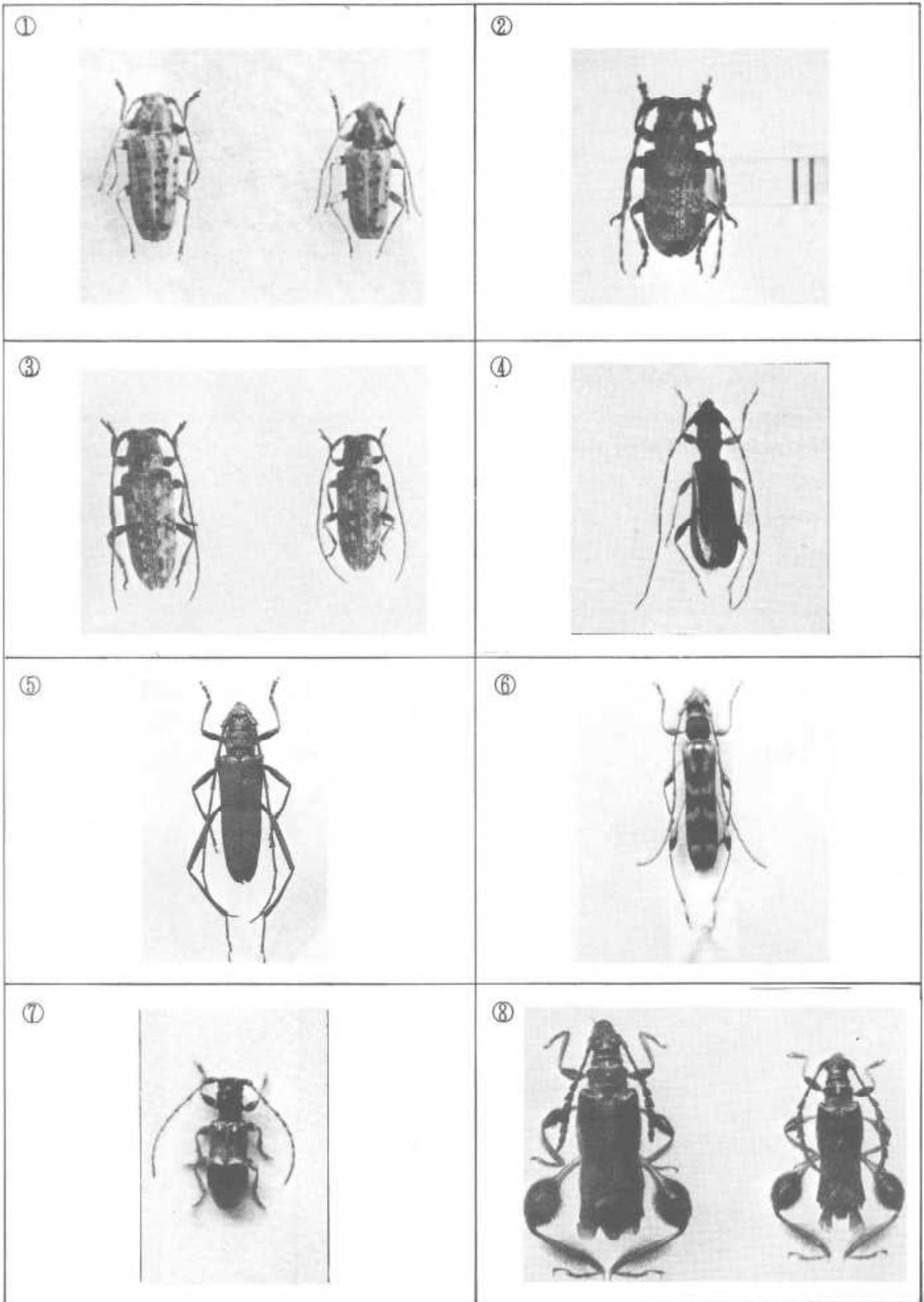


図 版 説 明

- ① *Atimia okayamensis* HAYASHI
ケブカマルクビカミキリ
- ② *Mesosa mediofasciata* BREUNING
ヨツボシシロオビゴマフカミキリ
- ③ *Sybra flavomaculata* BREUNING
キボシチビカミキリ
- ④ *Stenhomalus lighti* GRESSITT
トワダムモンメダカカミキリ
- ⑤ *Chelidonium thaliodes* BATES
オオアオカミキリ
- ⑥ *Cleomenes takiguchii* OHBAYASHI
タキグチモモゴトホソカミキリ
- ⑦ *Miccolamia cleroides* BATES
カッコウカミキリ
- ⑧ *Merionoeda nirsutus* MITONO et NISHIMURA
スネケブカヒロコバナカミキリ

広島県高田郡白木町のシルビアシジミ

—— 発生回数の推測 ——

難 波 通 孝

(岡山市北長瀬 434)

筆者は広島虫の会会報、第3号(1964年9月刊行)に於てシルビアシジミ *Zizina otis emelina* DEL'ORIAの産卵習性について若干の報告をしているが、1964年～1965年にわたり、産卵習性および発生についてすでに発表している5月と8月の調査以後'64,9月～'65,9月までの間に計12回訪れ観察した記録があるので、これに飼育記録を合わせ、その発生回数を推測して見た。会員諸兄のご批判をいただければ幸である。

I 産 卵 位 置

産卵位置	卵の個数	産卵位置	卵の個数	産卵位置	卵の個数
葉の表	64	茎	15	その他	10
葉の裏	70	花	33	計	192

II 発生経過の調査

観察回数14回について、それぞれの♂, ♀確認個体数とその破損状態、および生卵と幼虫の数を確認し、次の表に示した。成虫の破損状態は発生のはじめを↗であらわし、終りを↘、最盛期は→であらわした。

成虫と卵の確認一覧表

調査日 調査項目	'64, 5/10	8/23	9/23	9/26	9/27	11/1	11/8	'65, 5/5	5/16	8/15	8/21	9/5	9/12	9/19
成虫の確認	2♀	2♀	11♂ 15♀	2♂ 5♀	1♂ 4♀	1♀	/	/	1♂ 6♀	3♀	4♀	1♀	/	1♀
破損状態	↘	↘	→	↘	↘				↘	↘	↘	↗		↗
生卵の確認数	18	27	11	5	11	21	49	0	3	15	41	14	7	0
幼虫の確認数		1									12	3	1	

III 飼 育 観 察

- (1) 孵化において卵からの脱出は、卵の中心部を残し、そのまわりを右まわりに食するものが大部分であった。
- (2) 1, 2 齢幼虫の食し方は、葉表より、裏の表皮を残す。
- (3) 2 齢の終りになると表皮は残さず食する。
- (4) 終齢は体長9.5mm程度となり、蛹は8.5mmであった。
- (5) 経過は、8月14日産卵、8月18日孵化、8月20日1眠、8月22日2眠、8月25日3眠、8月31日蛹化、9月8日♂羽化、推定第4化、卵期4日、幼虫期13日、蛹期8日。

Ⅳ 発生経過の推測

Ⅱ及びⅢの調査観察により発生時期とその回数を推測して見た。飼育例により産卵から、羽化まで約25日を要することになるが、野外ではこれより多くの日を要することになる。この割合でゆくと5月より10月まで6回発生することになるが、交尾及び発生から産卵までにいくらかの日数を要する。これらの推測される理由と野外調査を合わせ、1回発生するのに必要な日数を約45日と判断し、年5回の発生。1回4月下旬、2回6月中・下旬、3回8月上旬、4回9月中・下旬及び5回10月下旬となった。

参 考 文 献

1. 難波通孝 1964. シルビアジミの新産地と産卵習性。広島虫の会々報3号82p.
2. 金沢久夫 1967. シルビアジミの新産地。広島虫の会々報6号203p.

《おとしふみ》

蛾2種の記録

Polythipta liquidalis LEECH マツグロシロノメイガ(マダラシロオオノメイガ)
本種は大型の美しいメイガである。山地性の種で少ないが、県南で次のように記録した。
岡山市泉田。7. XI. 1974.

Acosmeryx naga MOORE ハネナガブドウスズメ

本種はブドウスズメより少なく、山地性の種であるが下記の記録があるので報告しておく。
旭川ダム。4. V. 1969. (赤枝一弘)

日応寺附近のトンボ2種

少年自然の家附近には、かなり大規模な湿地帯があり、湿地帯に住む2種のトンボを採集したので報告しておく。

Nannophya pygmaea RAMBUR ハッチョウトンボ 3♂1♀, 岡山市日応寺。30. VI. 1974.

Sympetrum parvulum BARTENEFF ヒメアカネ 1♂, 岡山市日応寺。7. X. 1974.

(赤枝一弘)

モリヤママドガについて

Herdonia osacesalis osacesalis WALKER モリヤママドガは少ない種とされているが、すでに本誌上に何度か報告されているように、県南を中心にかなり記録されている。筆者も71年、73年と2度岡山市西大寺中野の自宅で本種を見つけ、1頭を標本にしている。ところで前号の守屋氏のザクロの葉で採集したという報告を見て、本種とザクロとの関係は偶然でないように思われるので記録しておく。筆者は2度ともイチジクの葉より採集したので、あるいはイチジクと本種は関係があるのではないかと思っていたが、実はイチジクの隣にザクロがあるので、ザクロの方に関係すると思われる。文献によるとサルスベリの茎に幼虫が入ると記されているが、サルスベリとザクロは近縁であるし、自宅のザクロに喰込む幼虫がいるのでこれが本種の幼虫ではないかと思われる。(赤枝一弘)

倉敷市玉島地区のナガサキアゲハ

児童生徒の科学作品展から

近藤 光 宏

(倉敷市中央2-16-14)

岡山県下の *Papilio memnon* LINNAEUS, 1758 subsp. *thunbergii* von SEIBOLD, 1824 ナガサキアゲハは、三宅宗夫氏(1♂ Aug. 10, '62)によってはじめて発見された。また西島真也氏は(July 23, '70)(July 4, 13, 19, '71), (Aug. 18, '71)と次々に採集し、県南部に産することは、ほぼまちがいない事実となった。西島氏は、その後も調査を続け、ついに幼虫を発見、食樹との関係を明らかにした。

このようにとき、筆者は、たまたま玉島地区で催されていた、児童生徒科学作品展を見学する機会に恵まれた。以下標本の中から本種についてのみひろってみた。

玉島	1♀	完全	Apr. 29, '74,	大熊 一雄	玉島東中3年
乙島小高地	1♀	ややいたんでいる	July 9, '74,	古城 渡	"
玉島	1♂	完全	July 10, '74,	有馬 俊幸	"
乙島	1♂	完全	July 27, '74,	原田 実	"
乙島	1♀	かなりいたんでいる	July 27, '74,	原田 実	"
乙島小高地	1♂	完全	Aug. 20, '74,	古城 渡	"
乙島大平	1♀	ややいたんでいる	Aug. 22, '74,	大倉 貢	"
乙島大平	1♂	完全	Aug. 26, '74,	大倉 貢	"

以上のように、玉島地区でも、相当数発生していることがわかった。

筆者は、かつて、連島から玉島へ向けて霞橋を車で渡っていて、ふわふわと川の上をとんでる本種を目撃したことがある。なお、倉敷市立玉島東中学校3年生の中には、熱心にチョウの研究をしている生徒が何人もあることを知り、たいへん心じょうぶに思ったことを付記しておく。

フジミドリシジミの新産地と飼育例

フジミドリシジミ *Quercusia Fujisana* MATSUMURA の採卵、飼育及び成虫の採集について新知見が得られたので報告しておく。

2卵, 28.IV.1974 難波採. 2卵, 28.IV.1974 三宅採. 英田郡西粟倉村. ブナより.

1♂, 28.V.1974 難波採. 1♂, 28.V.1974 那須敏氏採. 他4♂目撃.

又、筆者の1人三宅が飼育に成功しているので記録しておく。

28.IV.'74, 採卵. 30.IV.フ化, 2.V.1眠, 5.V.2眠, 9.V.3眠, 15.V.蛹化, 26.V.羽化, ♂. 幼虫期15日, 蛹期11日, 飼育樹, 若令ブナ, 以後コナラ.

終りに貴重な採集例を提供していただいた那須氏に感謝いたします。

(難波通孝・三宅誠治)

深谷昌次先生ごせい去

本会創設当時からの顧問で、会の生みの親深谷昌次先生（東京教育大教授，応用昆虫学，農博）は，胃がんのため東京駿河台の杏雲堂病院で療養中でありましたが，9月3日午後10時30分死去されました（60才）。

大原農研（現岡大農生研）に御在職当時，先生の研究室で，本会がうぶ声をあげてから今まで23年間もの永い間，会のために親身になっての御指導，ごべんたつをいただいてまいりました。まだまだこれからという時に本当に残念に思います。全会員で心からの追悼の意を表したいと思います。

深谷先生の思い出

（黒田祐一）

先生が亡くなられたのを知ったのは「昆虫と自然」（9巻，10号）の誌上で石倉秀次氏の追悼文を目にした時である。はっと驚くと共に先生のあのにこやかな笑顔が目に見えて来た。

私の知っている先生は終戦前より数年間で，大原農研に居られた時代である。その頃戦災で全ての標本類を失った私は，休講の多いのを幸に農研に出かけて行った。当時先生がどの程度におえらいのか，どの様な研究をして居られるのかも知らない専門外の医学生が，ただ天牛に興味を持っていると云うのみで，昆虫への渴望から害虫研究室を頻々とおそったのである。先生は木造の所狭しと本箱，棚の並んだ一室の窓辺の机に向って，何時もズイムンをつついておられた。そこへ突然ちん入する私を一度もいやな顔をされず，笑顔で迎えられ，ひと時を所員の小泉憲治・小坂和彦氏等を混え，虫談に花を咲されるのを楽しまれた。先生から日光で採集された天牛標本を戴いたのもこの様な時だったし，又今日多数の会員を擁する倉敷昆虫同好会の母体とも云うべき岡山博物同好会の発会を提案されたのもこの様な雰囲気の中からだ。その他私が天牛幼虫の記載をするについて研究機具に，文献閲覧に特別の便宜をはかって下さったのも先生の昆虫学に対する情熱と，後進を育成する熱意からだったと思っている。尚神庭の滝への採集行，日本昆虫学会中国・四国支部大会の時の事など次々と思い出される。

一昨年夏一月に胃潰瘍の手術をされたとお便りを戴いたが，こんなに早く亡くなられるとは。もうあの笑顔，あの特有な哄笑も目にし，耳にする事もない。ここに謹んでご冥福をお祈りします。

深谷昌次博士を悼む

(安江安宣)

倉敷昆虫同好会の創立発起人であられ、永らく本会顧問としてわたくしども会員一同をご指導頂いてきた農学博士深谷昌次先生は昭和49年9月3日午後10時30分胃がんのため東京杏雲堂病院で逝去された。享年60才。わが国も先進諸国のなかで長寿国に列したと先般報道されたばかりなのに博士は御養生の甲斐なく忽然として黄泉に旅立ったことは誠に学界のため残念の極みである。博士もさぞ御心残りとは察申しあげる。



本 会 顧 問

深谷昌次博士(1913~1974)

深谷博士と岡山県との関係は倉敷紡績株式会社社長大原孫三郎氏が大正3年に創設されたわが国唯一の私立農業研究所であった財団法人大原農業研究所昆虫部長として昭和18年御着任されてから昭和26年農林省農業技術研究所室長に御転出になるまでの約8年間倉敷市に在住された。

その間研究所昆虫部として主力を注がれたのは戦時という時局柄食糧増産の一翼として研究対象を稲作害虫にしばられ、特に当時は適当な農薬がなかったため被害が最も大きかった二化螟虫の発生予察に関する基礎的研究を休眠生理の立場から追究されて全14報に及ぶ詳細な報告をまとめあげ、わが国の二化螟虫には庄内系と西国系の二系統があるという重大な発見をされた。この研究はその後全国的規模でおこなわれ

ることになった政府の病虫害発生予察事業の確立に甚大な貢献をされたので、この御功績に対し農学者の名誉である日本農学賞を日本農学会から授与されたのである。

深谷博士は又お若い頃からアマチュア昆虫家としても既に令名あり、セミの研究で有名だった故加藤正世博士の主宰する昆虫趣味の会会員として御活躍されていた体験からであろうか、倉敷在住の有志と計られて昭和26年、本倉敷昆虫同好会を結成されたが、本会も創立の古さから申せば全国昆虫同好会のなかでも指折りにかぞえられる程成長したのも全く深谷博士の将来をよく洞察された学恩の賜物というほかはない。会員諸兄と採集会にお供したことも今は楽しい思い出となった。

エピソードをひとつ申せば海外よりの侵入害虫として知られている南米原産のヤサイゾウムシ *Listroderes costirostris obliquus* Klug は今日では関東以南のわが国内にすっかり棲みついてしまったが、この害虫については当時本会員であった倉敷西小学校山川東平氏の採集標本(昭和15年倉敷市酒津での採集品)を博士が昭和24年に検討されてそ

のなかにヤサイゾウムシを発見されたことである。それまではこの害虫は終戦時に占領軍とともに侵入したものと考えられていたのが、実は戦前から既に倉敷市近郊に潜入していた事実を明らかにされたことはわが国植物防疫史からみても特記すべきことといえる。

深谷博士は東京教育大学農学部へ移られてからは昆虫の組織培養を応用して昆虫ホルモンの作用機作、ウイルスの感染増殖の問題に研究を進められており、なくなる直前にも業績別刷を頂いたばかりであった。最後に伺ったのは昭和48年8月のある暑い日なか、教授会をわざわざ中座してこられ恐縮に耐えなかった。

ここに謹んで博士の御冥福をお祈り申しあげる。

略 歴

- 大正2年10月19日 埼玉県に生れる
 昭和13年3月 東京帝国大学農学部農学科卒業
 卒業論分：ズイムシアカタゴバチの産卵能力に及ぼす温湿度の影響
 同 13年4月 農林省農事試験場技手
 同 18年8月 財団法人大原農業研究所昆虫部長
 同 24年2月 農学博士（東大）の学位授与
 論文題目：二化螟虫の発生予察に関する基礎的研究
 同 25年4月 日本農学会賞受賞
 同 26年7月 農林省農業技術研究所発生予察研究室長
 同 31年5月 農林省農業技術研究所昆虫科長
 同 40年1月 日本応用動物昆虫学会長
 同 41年5月 東京教育大学農学部教授
 同 43年 日本学術会議会員（農学）
 同 49年9月3日 東京・杏雲堂病院にて胃がんのため逝去。享年60才。

著 書

- 昭和18年：イムス著石倉と共訳「昆虫学最近の進歩」，三省堂。
 昭和25年：「作物害虫の天敵」，河出書房。
 昭和25年：「二化螟虫」，北方出版社。
 昭和28年：「害虫と農薬の新知識」，道家信道共著，農山漁村文化協会。
 昭和34年：竹脇・針塚共編「実験形態学新説」，養賢堂。
 昭和48年：桐谷と共編「総合防除」，講談社サイエンティフク。

深谷先生・ズイムシ・アルバイト

近 藤 光 宏

たしか昭和26年の秋、故深谷先生が東京の農業技術研究所へ転勤されてまもないころのことである。

「近藤君いますか」といせいのいい、オクターブ高い声で、私宅を訪ねられたのは、中塚氏である。氏は、先生が大原農事試験場におられたころ、自から研究室の門をたたいて弟子入りしたファイトマンであった。今はどうなさっているのかよくわからない。

用件は、東京の大先生からズイムシを多量にそれも大至急送ってほしいとの依頼を受け、ひとりではどうにもならないので、私に手伝ってほしいとのことであった。私は、虫と名のつくことなら、勉強より、よほど楽しいことであり、その上、いくらかごほうびがいただけるとか、これ幸いとばかり、ふたつ返事で承知してしまった。

その日、さっそくズイムシの多く入っている稲わらを手入するため、同じ研究所の助手をしておられた方のお宅（倉敷市三田）へと自転車をとばした。稲は見事に色づき、今は取り入れを待つばかり、どこを見ても、ズイムシなどひそんでいるようには思えなかった。ところが案内されてはじめて、被害のありさまを知ることができた。被害を受けているところは、色も白っぽく、もみのふくらみがなく、ななめにみて、下の土が、すかして見えるほど、成育の悪いことなどがわかった。

その稲をふたかかえほど取り取って、自転車にのっけてわが家へと帰る。

さあ、それからがたいへん、わがやの一室は、なやにはやがわり、申し訳けていどのござをひいて、わらをほどく、2000頭を2～3日のうちに送るのである。当然家族みんなの協力を得て、よなべ仕事が始まる。もちろん中塚氏もいっしょである。しかし、ふしぎと楽しいのである。少しも苦にならないのである。わらを尻の方から、ふたつにさく、はじめごろは、「ポロ」多くても「ポロ、ポロ」で全く出てこないわらの方が多い。こんなことではと、こまってしまったが、そのうち選別の眼がしだいにやしなわれて、たくさん寄生しているわらをつかむことができるようになる。

こうして2日目には、一本から4～5頭、最も多いときは、10頭以上出てくることもある。たしか1頭につき1円であった。1円といっても今から23年前の1円、少なくとも今日の10円以上の値打ちがあると思う。10頭も出てくると、大もうけをしたようで、気をよくしたものである。それにしても手間仕事にはかわりない。かたがこるやら、ねむいやら、手は、ひどくあれて、3日目にはすっかりあごが出た。そしてやっとのことで目標額に達し、期限にまにあったのである。

ところがである。しばらくして、再び氏が訪れ、「あれは幼虫が小さすぎる、もっと十分成熟したものを送ってほしい」とのこと。ようするに立派なキンタマのついたやつでなかったらだめらしい。

そこで再び期待にこたえるべく努力したのである。

私が少しでも先生のためにお役に立てたのは、これぐらいのもの、印象に残っていたひとこまをご報告させていただき、今はなき、先生のごめい福をひたすらにお祈りしたい。

深谷昌次先生を偲ぶ

青 野 孝 昭

深谷先生がお亡くなりになった。かけがえのない方が、逝ってしまわれた。

岡山博物同好会例会への出席が機縁となって、先生に初めてお目にかかれたのは昭和22年だったと思う。倉敷には大原農業研究所があり、一流の学者がそこで昆虫の研究をなさっているということの発見は、少年の日の私には大きな驚きであり、衝撃ですらあった。

その後、学校からの帰りに、同窓の小野洋君と連れだつては、研究室に、度々、おじゃま申し上げるようになった。当時、先生は二化螟虫の研究に没頭されていたが、いつも笑顔で私たちを暖かく迎え入れて下さった。何よりも幸せだったのは、ご自分がアマチュアからプロの道に進まれただけに、私たちの憧れの気持をよく理解下さり、あれこれと教育して下さったことだと思う。幾冊もの本を読まされ、標本の整理を仰せつかり、やがては、二化螟蛾の幼虫処理まで手伝わせていただいた。

「新昆虫」発刊一周年記念行事として、学生の研究論文募集があることを知らされ、応募を勧めて下さり、いろいろとご指導を戴いたことも、私たちには忘れられないでき事である。

倉敷昆虫同好会が誕生した年の夏、先生は東京の農業技術研究所へお移りになった。

先生は専門分野では妥協を許さぬ厳しさでご自分を律せられ、半面、私たちとの接触では、あまりにも人間的な喜怒哀楽の情もお見せ下さった。今も、そのおりおりのお顔が臉に浮かび懐しい想にかられる。ここに謹んで先生のご冥福を心からお祈り申し上げたい。

深谷先生のごせい去を悼む

小 野 洋

ギンギンッと古い木の板の床が鳴って、せかせかと足音が近づき、いきなり「だめじゃないか3人も居て！」とっ声が飛んできた。そばにあった定温器が、やや高めを示していたのである。朋友青野氏と深谷先生の研究室へアルバイトでおじゃましていた時の一コマである。

高校から大学時代初期（この頃会が発足）にかけては、たいした用がなくてもたびたび無遠慮におしかけていた。時にはおほめの言葉をいただいたり、おしかりを受けたりしながら、当時先生が没頭しておられたニカメイチュウを材料にした昆虫生理学の分野の御研究のにおいをかがせていただき、私達の虫の勉強も、ここで大きな影響を受けたように思う。先生は御多忙な時でも、心よく迎えてくださったばかりでなく、すぐに興味深い話題を放出、私達も思わずみりょうされ熱中していた。そして、おりにふれてはアマチュアの可能な研究分野として「是非、生態学をやるように」とすすめられたものである。

また、昆虫同好会が誕生する以前から岡山博物同好会の本部がここにおかれていた関係で、今も御元気で御活躍中の佐藤清明先生と御一緒に例会の準備をされていたようすなどもなつかしく思いだされる。臥牛山、神庭の滝、黒田と何回か、採集行もともにさせていただいた。

東京へ移られてからも、まさに会のバックボーンとして力強い存在であり、発足当時から顧問として、心からの励ましを続けていただいた。

これからも、ますます御教導をいただけるはずであったが…。突然で、なにか心のささえを失ったような感じで本当に残念である。

ひたすらに、先生のごめい福と御家族の皆様の御多幸をお祈りしたい。

 * 編 集 後 記 *

○月×日、夜

昆虫館に、幹事全員集合して、編集会議を持つ。腹が減ってはどうにもならない。全員揃って食事に出る。いつもマスクをしている青野氏、実は歯を抜いてしまって、上顎の犬歯が二本！残っているだけで噛めないから、ほとんど丸飲みに近い。いや、その早いこと！

早くも来年の遠征に話がはずむ。“屋久島へ行こうヨ”（脇本）、“テントかつぎが大変だ、奥日光ぐらいに……”（赤枝）、“……”（小野）、“体力を考えねばナア……”とは最年長？の青野氏。那須氏と近藤氏は、この間、ちょっと抜けて○○○⊕へ。

今回は、岡山の非常に良心的な誠実な印刷所に印刷をお願いすることにした。

（宇野 記）

倉敷昆虫同好会顧問

石原 保 先生
小泉 憲 治 先生
安江 安 宣 先生
佐藤 清 明 先生
杉山 章 平 先生
白水 隆 先生
重井 博 先生

医療法人

重井病院

倉敷市幸町 TEL (22) 3655

すずむし No 111 June 20, 1975

倉敷昆虫同好会発行

連絡事務所 倉敷市幸町（倉敷昆虫館内）
振替口座 岡山6927

本部（倉敷市中央2丁目20の1 岡山大学大原農業生物研究所内）
印刷所 ふじや高速印刷
岡山市丸の内2丁目11番24号